

なかつぼ

中坪遺跡(第3次) その3

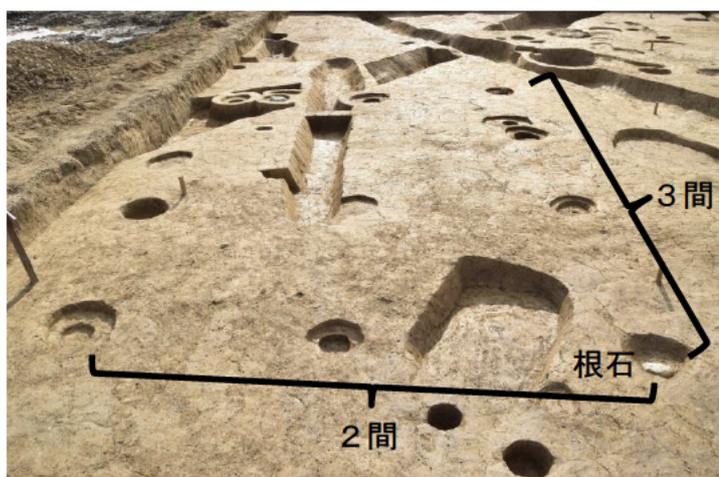
室町時代の人が生活した跡

みなさん、お久しぶりです！中坪遺跡の調査もいよいよ大詰めとなってきました。今回は、中坪遺跡で最も広い調査区が終わりまりましたのでその成果を御報告します。主な成果としては、建物跡や井戸、多くの土器が出土した溝がみつかりました。



上の写真は、調査区を北から南方向に撮影を行ったものです。調査区の南側には、立田町集落と穴師神社の社叢しやそうがあります。

建物跡は周辺より標高の高い場所、井戸は標高が低く水脈に達しやすい地点など地形を考慮し、適当な場所に作られていたことが調査でわかりました。建物や井戸の他、多くの溝がみつっているのも特徴の一つです。溝は奈良時代から室町時代にかけてのものがほとんどで、特に穴師神社の北側で見つかった室町時代の大溝からは多くの遺物が見つかっています。



建物跡（北から撮影）

見つかった建物跡は柱間2間×3間の規模を持つ掘立柱建物ほったてばしらたてものです。掘立柱とは、地面に穴を掘り、柱を直接打ち込む工法です。今回の調査で見つかった建物の柱穴には、柱が沈みこむのを防ぐ根石が残っているものがあり、また、埋土から室町時代の土師器片が出土しています。



井戸（北東から撮影）

結物井戸^{ゆいものいど}とよばれる縦長の板材を円形状に並べた室町時代の井戸がみつかりました。前回紹介した石組井戸よりも作り易く、コストパフォーマンスが良いため、室町時代後期には広く普及しています。使われている板材の中には、建築材から転用しているものもありました。結物井戸はこのほかにも2基確認されています。



大溝（東から撮影）

この大溝は、幅約3.5m、深さ約0.8mの規模となります。大溝の全容は調査区外へと続くため、不明な箇所もありますが室町時代の遺物が多く出土していることから、かつて室町時代の集落もしくは屋敷地を区画していた溝と考えられます。遺物は土師器の皿や鍋が多い中、瀬戸製の仏具と考えられる陶器や中国製磁器、瓦もありました。現在、これらの遺物は洗浄や復元作業をしている最中です。

<問い合わせ先> 〒515-0325 三重県多気郡明和町竹川503
三重県埋蔵文化財センター調査研究1課
担当者：鐸木、水谷、中川、森
電話：0596-52-7028 FAX：0596-52-7035
E-mail：maibun@pref.mie.jp